16
125
96

萬葉集古義

九上

地

萬葉集古義

九上地

東京圖書館
門 | 類 | 一六函 | 架 | 九六號 | 冊

明治十九年九月十一日内務省交付

帝国図書館

丹比真人歌一首

丹比(タヂヒノ)真人(マヒト)ハ屋主歟(ガ)(ウタヒトツ)

難波方(ナニハガタ)塩干爾出而(シホヒニイデヽ)玉藻苅(タマモカル)海(アマ)

未通女等(ヲトメドモ)汝(ナ)名告左禰(ノラサネ)。

海未通女(アマヲトメドモ)等(ドモ)ハ女ノ字ノ舊本ニ從ヒテ海女(アマヲトメ)ノ中ニ容儀ノそぐれ
たるニ心ヲつけていへるよーなり。等ハそのもと數

あるものゐいふ言なれど、一人のりへゐもいふこと、
妹等子等(イセラコラ)などいふ良(ラ)の言ゐ同じ。これ古へ人の語のせ
まらざるなり。さて等(ドモ)べ等(ドモ)よといふ意なり○歌意ハ、
難波潟の汐凋(シホヒ)ゐ出て、玉藻を苅(ル)そのをとめよ。汝の名
を、吾ゐ告知(ノ)て、吾ヵ妻とならむことを許してよと、心
のうつれるあまりゐ、戯れて云やりつるなり。さて此、
歌贈れるハ、むげなる海女ふていあるべ。ならば、旅中
ふて、心のよれる女ゐ、實(ジチ)めきて、ものいもむもさそでの
ゐれべ、戯(レ)ゐ海女と見なして、
その心をとれるなるべし

萬葉古義九上

五十五

(某)(娘)(子)和歌(ソレノヲトメガヨタフルウタ)

某娘子の、戯(レ)ゐ海女といひのけられさ
るゆゑ、海女ゐゐりて、答へつるならむ

朝入(アサリ)爲(スル)。流人(アマ)跡乎見(トヲミ)座(マセ)。草枕(クサマクラ)。客(タビ)
去人(ユクヒト)爾(ニ)妻者(ツマトハ)不敷(ノラジ)。

流人(アマトヲミマセ)跡乎見座ハ、流字ハ、海の誤にの、又ハ流ハ上ゐつき
さるゐて、人の上ゐ海字脱さるゐもゐらむ、乎ヲハ、其事

をつよ〳〵いふ時の助辭なり。海人と見ませ。他の人とハ決て見給ふな。といふ謂なり○客字。舊本ハ誤れり○妻者不敷（ツマトハノラジ）とハ。敷ハ教の誤り。妻となりて。名を告知らしハをまじとなり○歌意ハ。さゞ漁業をする。おしなみの海人と見過してなませ。君ハ旅人なれば。其人ふ妻となりて。心かろ〳〵。名を告知をことハせじと

なり

石河卿歌（イシカハノマヘツキミノウタ）一首（ヒトツ）

石河卿ハ。石河朝臣年足の。年足の傳ハ。十九ふ至りて云べし

名草目而。今夜者寐南。（ナグサメテコヨヒハネムアス）従明日（ヨリ）

波。戀鴨（ハコヒカモ）行武（ユカム）従此間（コヨ）別者（ワカレナバ）。

従此間別者ハ。てゝより別るゝの意なり○歌意ハ。明日ハ早別れなむと思へば。悲〳〵いまゞ別れぬうちなれば。とかゝるぐさめて今夜ハ寐むを明日てゝより別れなば。其後ハ一向ふ。家の方を戀〳〵

くのみ思ひつゝ、遠き海山を越行
むの、さてもせむ方なーやとなり
ウマ カヒノマツキミノウタ
宇合卿歌三首
アカトキ ノ イメニ ミエ
暁之夢所見作。梶島乃。石越浪
シキ テ シ オモホユ
乃敷豆志所念。
梶島ハ、契沖云、八雲御抄ふ、丹後と注せさせ給へり、此、
宇合卿ハ、行役ふくるしめる人ふて、詩ふも歌ふもそ

のよーをよまる、されども丹後の方へハおもむかれ
とる事ハ見えず、西海道節度使ふて下られけること
あれバ、もし筑紫ふや、已上契沖説 今按ふ、七ノ巻廿二ノ丁ふ、夢耳
ツギテミエツ、タカシマノイソコスタ ノ シクク オモホユ
繼而所見小竹島之越礒波之敷布所念 小ハ、作ノ字の誤寫なり、
あるハ、句の少異りてあるのみふて、全ク同歌なり、されバ
近江國高島ふて作賜へる歌ふるを、誤り傳て、梶島と
カヂシマ
せるなるべし○歌意ハ、旅なれバ、夜ごとふ早く眠る
ことあるさいぞ、やうやく暁ふいとりて、そこし眠をも
よはそれハ、そやその夢ふさへ、家人の見えつゝ、一ト
ぢふ頻りて、家の方ごの戀し〳〵思へる、となり○第三

四句ハ句中
の序ぁり

山品之(ヤマシナノ)。石田(イハタ)乃小野(ヲヌ)之。母蘇原(ハヽソハラ)。
見乍哉公(ミツヽヤキミガ)之。山道越良武(ヤマヂコユラム)。

山品之石田ハ。契沖云。神名式ニ云。宇治郡山科神社二座。
久世郡石田神社。大。月次新嘗。和名抄ニ云。宇治郡山科。也未之奈。延
喜式ふも。山科ハ宇治郡ある。此集第十
三ふも。山科之石田之森之須馬神爾奴左取向而とよ
みされバ。延喜式ふ。石田神社を。久世郡ふ載られ
ふるごのへり。志のれバ山科ハ。まづハ宇治郡なれど。久
世郡ふもかゝりて。そこふ石田神社ハあるふや。例を
いてゞ。吉隠を日本紀ふハ兎田郡といひ。延喜式ふハ
城上郡ふ載るごのごとし。○歌意ハ。石田の小野の。柞
原の面白き風景を見つゝ。今日このごろ。君の山道を
越行給ふらむことなり。これハ旅行人
をおもひやりてよみ給へるなるべし

山科之石田社爾布靡越者蓋

真恒本　書入
靡ハ麻赴の誤
ニて。ダムケセ
ハと訓べきこと
十二十三の長
歌よりあり

吾妹爾（ワギモニ）直相鴨（タヾニアハムカモ）。

社。官本ハ杜とのけり○布靡越者ハ。中山，巖水云。或人，考ふ。布靡越ハ幣帛獻の誤ふや。されバタムケセバ。と訓べーと云り。今按ふ。幣帛を帛幣ふ誤ーを。又布靡ーてゐむくれバ。その義ふてこのけるふもあるべし。已上巖水説ふ。布麻勢者の誤ふらむと云るよりハ。幣帛獻者と云るそ。理ありて聞ゆる　○歌，意ハ。石田の神社（モリ）ふ幣帛（ムケ）奉（タ）ーて。慇懃ふ祈（ノミ）白（マヲ）ーなバ。若（モ）し戀ーく思ふ妹ふあふ事もあらむこの。さてもゆのーやと

なり。十二ふ。山代石田杜（ヤマシロノイハタノモリニコロオク）心鈍。手向爲在妹相難（タムケシタレヤイモニアヒガタキ）。思合（ヒ）ス（シガ）ベ（ウタ）ーツ（フタ）

碁師歌二首

碁師ハ。傳未（ダ）詳ふらバ。圍碁をよく〳〵爲〳〵故ふ負る。人，異名ふどならむ。中昔のそゐふ。壹岐，判官知康を。敲判官と呼なせる類の。碁師と云ことハ。三代實録十三紀，夏井，傳ふ。伴，宿禰少勝雄。以善弈碁（ヨクスルヲ）延曆聘唐之日。備於使員（ツカヒノカズ）以碁師也。
と見えたり

母山。霞棚引。左夜深而。吾舟將泊。等萬里不知母。

母山ハ。本居氏云。七巻ノ。大葉山霞蒙の歌。此と全ク同じ。されバ此歌。母の上ノ。山の下ノ爾字脱さるゐて。オホ。ヤマ。ゐり。山の下ノ爾字ゐきをも思ふべし○歌意。七巻ノ上ノ既く云り

思乍。雖來來不勝而。水尾崎。眞長乃浦乎。又顧津。

思乍ハ。眞長の浦を愛思ひつゝの謂なり。思ハ愛賞むをいへり○雖來來不勝而ハ。眞長の浦の。おもしろきゐよりて。こぎつゝ過來れど。得來ぜしての意なり○水尾崎ハ。和名抄ノ。近江。國高島。郡三尾。繼體天皇紀ノも見ゆ。枕冊子ノ。崎ハ。云々水尾の崎○眞長乃浦も。三尾。鄉ノあるゐるべし○歌意ハ。三尾の崎眞長の浦の風景のおもしろきノ愛つゝ。そこを過來むとをれど。得過來ぜして。又漕還りて見つるよとなり

小辯歌一首（スナキオホトモガウタヒトツ）

小辯ハ.傳未詳（タ）ならぜ.春日藏首老（カスガノクラノオビトオユ）の.僧ホてありし時の名を辨基と呼（イヘ）り.委（ク）ハ三.巻ホ見えたり.これハその辨基ご.男ゐどゐもあらむの.もし僧名ならバ.字音ホ讀べし.又下文ホ.式部兵部などゐるホよらバ.左右少辨の官ゐる人を畧書るの.官名ならバ.スナキオホトモヒと訓べし.畧解ホ.コトモヒと訓るハ謂ゐし.和名抄ホ.職員令ニ云.左右少辨（スナイヲ）須奈伊於保（ホ）止毛比（トモヒ）とあり

高島之（タカシマノ）足利湖乎（アドリミナトヲ）。漕（コギ）過而（スギテ）。塩津（シホツ）菅浦（スガウラ）。今者将榜（イマハコガナム）。

湖（ミナト）字.一本ホハ浦とてのけり.猶舊本ホ從べし.○塩津（シホツ）菅浦（スガウラ）ハ.近江國淺井郡ホ塩津（シホツ）あれバ.菅浦もそこゐるべし.○今者将榜（イマハコガナム）.者字ハ.舊本ホハ.のまゝゐてイマハコガナムと訓べし.てハ自（ラ）船ホてよめるなり.○歌意ハ.阿渡の湖を漕過來つれバ.今ハのねてを香とあらさめしハ.中々の誤見まゐ〳〵くおつのしく思ひし.塩津菅浦を漕ホむそ

となり

伊保麻呂歌一首

伊保麻呂ハ傳未詳ならび

吾疊三重乃河原之。礒裏爾。如是鴨跡。鳴河蝦可物。

吾疊ハ枕詞なり。本居氏。疊ハ。幣てふ言ふ係るる序ふて。幾重も重ぬる物ある故ふ。然つゞけるなり。物を重ぬるを多々牟と云べ。疊と云名も重ぬるよりなり。三重とつゞくるハ。三ふハかゝらぞ。さゞ重ふのゝれり。然るを三重ハ。表中裏を云るど云ハ。後世意なりと云り。今云。吾ハさゞ輕くそへるふて。るれのふもあれ。さゞ疊なり。○三重乃河原ハ。和名抄ふ。伊勢國三重郡。古事記ふ。伊勢國之三重采女とあり。そこの河ふるべし。○礒裏ハ。礒ハ川ふも池ふもよめり。水邊の巖をいふ。裏ハうちと云ふ同じ。○如是鴨跡ハ。いつまで

もか〳〵もでな住まゐ〳〵とて、といふおらむ○歌意ハ、此三重の河原の、面白き磯の裏ふ處得て、いつまでもか〳〵もでお住まゐ〳〵とて鳴河蝦歟、さても處得でや、の河蝦の聲やとなり

式部大倭芳野作歌一首

式部大倭とハ、式部省の官職の人おるべし、大倭ハ、氏おらむ、國名ふハあらじ、畧解ふ、大亟の誤ふらむ、のといへれど、さふハあらじ、

山高見。白水綿花爾。落多藝津。

夏身之河門。雖見不飽香聞。

本句、六、巻ふもありき○歌意ハ、山で高き故ふ、あるこの白水綿花を散〳〵る如〳〵、落さぎりさる夏身の河門ハ、見れど〳〵飽足ぞ、さてもおもしろのけしきき哉とおり

兵部川原歌一首

兵部川原とハ、兵部省の官職の人ある〻ベし、川原ハ、氏おらむ、一本川字なし、畧解ふ、川原ハ小巫などの誤ならむと云れど、さふハ
ど

大瀧乎（オホタギヲ）過而（スギテ）夏箕爾（ナツミニ）。傍爲而（ソヒヲリテ）。淨河瀬（キヨキカハセヲ）見（ミル）。明沙（ガサヤケサ）。

傍爲而ハ、爲ハ居の誤ふて、ソヒヲリテあるべし、と本居氏云り○歌意ハ、吉野の大瀧を過來て、此夏身川ふ傍居て、清き河瀬を見の浄けく、面白さるとふるふ詞ふしとなり、岡部氏云、此所のさま、實ふ此歌の如し、古歌ハ徒ふ聞ゆるも、其地ふ到て見るふ感あり

詠上総末珠名娘子（ヨメルカミツフサノスエノタマナヲトメヲウタヒトツ）歌一首

并短歌（マタミジカウタ）

上総ハ、和名抄ふ、上總、加三豆不佐（カミツフサ）とあり、古語拾遺ふ、好麻所レ生、故謂二之總一、國、古語麻ヲ謂二之總一ト也、今爲二上總下總

二國續紀ふ元正天皇養老二年五月乙未割上總國之平群安房朝夷長狹四郡置安房國とあり○末ハ和名抄ふ上総國周淮郡とあるそてなり扨て歌ふ安房郡とあるへき右の如くふ未タ國を割ざりつ前ふれバ安房郡ふ繼ふる周淮郡といふなり○珠名ハ娘子名なり○子の下歌字舊本脫

水長鳥安房爾繼有梓弓末乃珠名者胸別之廣吾妹腰細之

須輕娘子之其姿之端正爾如花咲而立者玉桙乃道行人者己行道者不去而不召爾門至奴指並隣之君者預已妻離而不乞爾鎰左倍奉人乃皆如是

迷有者。容艶。縁而曽妹者。多波
（マドヘレバ　ウチシナヒヨリテソイモハタ）

禮豆有家留。
（レテアリケル）

水長鳥ハ。枕詞なり。水長ハ。尻長（シナガ）なるべきよし。既く云り。さて安房（アハ）とあるハ。甚意得難きを。強て考（カムガ）れバ。尻長鳥（シナガトリ）表羽（ウハハ）。といふ意ふいひのけさるの。表ハ安と縮れり。さて表羽裏羽（ウハハシタハ）ハ。何（レ）の鳥ふもありて。其鳥とかぎりさる事ふいひあれさる鳥も。尻長（シナガトリ）鳥を云るふやあらむ。○梓弓（アヅサユミ）も。枕詞あり。契沖云。第十四ふ。安豆左由美（アヅサユミ）須恵（スエ）尓（ニ）多麻末吉（タママキ）とよめるハ。角弓（ツノユミ）あどの如し。弓のこのざりを云へバ。今も末（スエ）と云字のみならず。珠（タマ）といふもこさるべし。○胸別之廣吾妹（ムナワケノヒロケキワギモ）とハ。胸別（ムナワケ）と云むの如し。鹿ふ胸別（ムナワケ）と云とハ別あり。女ハ胸の廣きを美麗とせしなり。出雲風土記ふ。國之餘有（クニノアマリアリ）詔而。童女胸鉏（ヲトメノムナスキ）所取而。大魚之支太衝別而云々とある。童女胸鉏も。鉏の形の。美女の胸の如くふ。廣らあるを云るなるべしと本居氏云り。契沖云。胸のせバく。て高き相ふ云り。楚辞景差（ケイシャ）大招（タイセウ）ニ曰。滂心（ホウシン）綽態（シャクタイ）姣麗（カウレイ）只。小腰秀頸若（セウヨウシウケイジャク）鮮卑（センピ）之只。とハ。腰細き虫なれバ。娘子の腰の細き俗ふ鳩胸（ハトムネ）とてこるを。腰細之須輕娘子（コシホソノスガルヲトメ）

きを譬云り。十六竹取翁歌ふ。飛翔爲輕如來腰細爾取
餝氷とあり。漢籍遊仙窟ふも。細細腰支と見えたり。須輕のことは。
品物解ふ具ふ釋り○其姿之は。ソノカホノありカホは。
集中ふ姿貌容るどの字を然訓り。書紀ふも。容姿形容
形姿貌容止面貌顔色顔貌姿色相貌などをも。皆然
訓り。さてカホは。先ッは一體の形様を総て云なるを。容姿
おどの字を訓るまあり。身體の長とあるものは顔面なる故ふ。即ち
カホといふそ。顔面の形様を云ことの如くはなれる。
面貌おどの字を訓るまあり。後拾遺集ふ。人まれぞかは
とあるも。其ありさ。泣でのりをおぐさめふもる。
れどてれは後なり。この故ふ顔面の形様のみを。まあ

いふてと、意得ていひ。甚くるのへること多し。まあるを古事
記傳ふ。かゐは。先は面の形様を云名ふて。總ての身體
の形様を兼さりとり。云るは。本末を取さぐへさる説ふ
りけ。
○端正爾は。キラキラシキニと訓べし。書紀ふも。
端正佳麗端麗閑麗姝妙分明おどを然訓り。又文選ふ
瀏を然訓り。靈異記ふ。端正岐良岐良之。新撰字鏡ふ。嬥
娸支良支良志と見えたり。今昔物語。貞道季武公時紫
きらしく。手き、魂太く。思量ありて。いのめしく。何ふ
つけてふ。おろのなるをいふふて。野見物語ふ。皆見る目きら
き、さるをいさ、のかれり。ことおのりけりとあるは。目の
つやめきふさやぎさる葉は。いとあをくきよげある
ふ。思ひかけぞふるべくもあらぬくきのあのうきら

きら〳〵う見えさることそ。あやー〳〵けれどをのー〳〵けれ云
云。てれハ光りるハー〳〵。目ふ立方ふいへり。みみあのー常灯ふハあらで。う
ちふ又人の奉りさる。おそろーきまでも云えさるふ。佛
のきら〳〵と見えさまへる。いみー〳〵るふとげふて
云々。これも上ふ同じ。きら〳〵しき物。大将の御さきおひさ
る云々。これハ威儀正ー〳〵。目ふ立かさふいへるなり。源氏物語明石ふ。月の
かそのみきら〳〵とー云々。未通女。巻ふ。人ぞらいと
そ〳〵よふみきら〳〵しー〳〵て。心もちひあどもものー
こー〳〵て物ー給ふ。落窪物語ふ。少将おち〳〵ぼの君とハ
きのざりけれバ。なふの名そ云々。きら〳〵ーのらぬ

人の名なり云々。又平家物語ふ。きらをみのー〳〵。谷川氏ハ。きら
ハ奇麗の轉音ふやと云り。神皇正統記ふ。鳥羽院ハ。御容儀めでさ
〳〵まーゐせべ。きらをこのませ給ひけるおどもあり
○如花咲而立者。七ノ巻ニ十四丁ふ。道邊之草深由利乃花咲
爾。咲之柄二妻常可云也。十八三十丁ふ。夏野能佐由利能
波奈能波奈爾爾布夫爾恵美天おどあり 遊仙窟ふ。眉、夜ノ頰上ニ華開ケ似タレ闕ニ春ノ。○指並ハ。サシナラブと訓べー。指、對ムカヘ
云。對並べる隣のよーなり。六、巻ふ。刺並之國爾出座耶
云々とあるハ。。。。サシナミノクニニイデマスヤ。。。。ナリ。○隣之君ハ。隣ハ。トナリノキミ戸並の義なり。
近隣の男をさえ○頓ハ。古寫本拾穗本等頓字の誤ふハ豫と作り。

て。タ。チマ。チ二。と訓べし。と岡部氏説り。これ宜し。此、下十九丁ふ。傾情消失奴。十六三十ふ。傾爾吾可死ありどあり。安康天皇紀ふ。獦忽舒明天皇紀ふ。當時ありどあり。○已妻離而。竹取物語ふ。もとのめどもへ。かぐやひめをこのあらぢをせむまりけして。ひとりあのしくらし給ふ。又云。家ふをこしのこりてありけるものどもへ。るつのこまをとらぬものどもふさびつ。是をきゝてそなれるまひしもとのうへへ。そらをきりてしこらひ給ふとあり。思合べし。○不乞爾鎰左倍奉鎰、字。拾穗本ふへ鍮と作り。へ。鎰へ。人の家ふむねと大切ふをるものなり。それをさへ。珠名娘子のをもせぬふ打あるへて。家の内のことを。まかせむとまをするよしあり。と契沖云るの如し。

鎰へ。和名抄ふ。四聲字苑云。鑰、關具也。楊氏漢語抄云。鑰匙門乃加岐。今案俗人印鑰之處用鎰、字非也。まさ楊氏漢語抄云。鉤匙戸乃加岐。一云加良加岐。鑰子藏乃賀岐あどあり。奉へ。マ。ツ。マツルとよみて。さてまつることなり。マ。ツ。ルとのみ云るへ。一、巻十九丁ふ。山神乃奉調等。三、巻五十一丁ふ。一手者和細布奉。四、巻三十一丁ふ。余衣形見爾奉。十、巻五十八丁ふ。於君奉者夜爾毛著金。十一せ丁ふ。情左倍奉有君爾。又廿二君爾奉跡。十二四十二丁ふ。吾幣奉。十三八丁ふ。公

奉而。十六丗九ふ。父爾獻都也。十八三十二丁ふ。萬調麻都流都可佐等ゐどあり。皆マ。ツ。ルと訓べし。右の奉をマ。タ。スと訓へ。いみきひぶことあり。物を奉獻るをマ。タ。スと云ことゐし。右の十八ふ。假字ふて麻都流とあるを。證とをべし。

○人乃皆ハ。もし人皆乃とありしの○容艶ハ。本居氏云。ウ。チ。シ。ナ。ヒ。と訓べし。十一巻ふ。四搓二將有妹之光儀乎。廿一巻ふ。多知奈布伎美我須我多乎とあり。中山嚴水ハ。容艶ハ。かさちつくろひまる意あれバ。ト。リ。ヨ。ソ。ヒ。と訓べきの。古事記ハ千尋。神御歌ふ。とりよそひとありと。

○緣而曾妹者云々ハ。妹の其男ふ緣りてそ。いへりと。

○反歌ふ。そ

のゐるゝさまを。くハ〳〵く云り

反歌

金門爾之人乃來立者。夜中母。
身者田菜不知。出曾相來。

金門爾之ハ。門ふと云ごの如し。金門ハ門のことなり。四巻ふ具繹り。之ハ。そのの一ト。そぢなるを。おもく云助辭ふり○田菜不知ハ。一巻ふ委繹り○出曾相來ハ。〳〵る男ふ出會よしなり○歌意ハ。その娘子の門ふ。男ごの來立

べ。るとひ夜中ゐてゐも。その身のならむやう
を心得ゐらぞゐ。出てそあひけるとなり

詠水江浦島子歌一首并短歌

水江、浦島、子へ。水江へ氏。水江をスミノエとよみて。墨吉とひとつと心得て。地ノ名と。もるへころ。浦島へ名。子へ男子の通稱とて。某子某子と云ること。古語ゐ多し。浦島と云ものありて。それの子と云ふへあらぞ。雄略天皇紀ゐ。吉備臣尾代と云人を。尾代子と歌ゐよめること見えて。其後往々例あり。さてこの浦

島子の事。まづ書紀雄略天皇巻ゐ。二十二年秋七月。丹波國餘社郡管川人。水江浦島子。乗レ船而釣。遂得二大亀一。便化為レ女。於是浦島子感以為レ婦。相逐入レ海。到二蓬萊山一。歴二觀仙家一。語在二別巻一とあんり。丹波國とあれども。和銅六年ゐ。丹波國五郡を割て。丹後を置れて後。與謝郡へ丹後國ゐ屬さり。丹後國風土記ゐ。與謝郡日量里。此里に有二筒川村一。此人。此の下ゐ。村字ゐどの脱せるこの。夫日下部首等先祖。名。云二筒川嶼子一。為レ人。姿容秀美。風流無レ類。斯レ所レ謂水江浦嶼子者也。是舊宰伊預部類へ福の誤この。馬養連カ所レ記無二相乖一。故レ略二陳所由之旨一。長谷朝倉宮御宇天皇御世。嶼子獨乗二小船一。汎二出海中一。為レ釣。經二三日三夜一。不レ得二一魚一。乃得二五色亀一。心思

奇異置于舩中即寐忽爲婦人其容美麗更不可比嶼子問曰人宅遙遠海庭人乏詎人忽來女娘微咲對曰風流之士獨汎蒼海不勝近談就風雲來嶼子復問曰風雲何處來女娘答曰天上仙家之人也請君勿疑乘相談之愛嶼子知神女慎懼疑心女娘語曰賤妾之意共天地畢俱日月極但君奈何早告許不之意嶼子答曰更無所言何觸乎女娘曰君宜迴棹赴于蓬山嶼子從往女娘教令眠目即不意之間至海中博大之島其地如敷玉闕臺腌映樓堂玲瓏目所不見耳所不聞携手徐行到一大宅之門女娘曰君且立此處開門入内即七竪子來相語曰是龜比賣之夫也茲知女娘之名龜比賣乃女娘出來嶼子語竪子等事女娘曰其七竪子者昴星也其八竪子者畢星也君莫怪焉即立前引導進入于内女娘父母共相迎揖而定坐于斯稱説人間仙都之別談議人神偶會之嘉乃雪百品芳味兄弟姉妹等舉坏獻酬隣里紹幼女等紅顏戲接仙歌寥亮神儛婆娑其爲歡宴萬倍人間於茲不知日暮但黄昏之時群仙侶等漸々退散即女娘獨留雙眉接袖成夫婦之理于時嶼子遺舊俗遊仙都既經三歳忽起懐土之心獨戀二親故吟哀繁發嗟歎日益女娘問曰比來觀君夫之貌

異於常時。願聞其志。嶼子對曰。古人言。少人壌土。死狐首
丘。僕以虚談。今斯信然也。女娘問曰。君欲歸乎。嶼子答曰。
僕近離親故之俗。遠入神仙之堺。不忍戀着。輒申輕慮。所
望遷還本俗。奉拜二親。女娘拭淚歎曰。意等金石。共期萬
歳。何眷鄉里。棄遺一時。即相携俳佪。相談慟哀。遂接袂退
去。就于岐路。於是女娘父母親族。但悲別送之。女娘取玉
匣。授嶼子。謂曰。君終不遺賤妾。有眷尋者。堅握匣慎莫開
見。即相分乘船。仍教令眠目。忽到本土筒川鄉。即瞻眺村
邑。人物遷易。更無所由。爰問鄉人曰。水江浦嶼子之家人
今在何處。鄉人答曰。君何處人問舊遠人乎。吾聞古老等
相傳曰。先世有水江浦嶼子。獨遊蒼海。復不還來。今經三
百餘歳者。何忽問此乎。即衒弃心。雖迴鄉里。不會一親。既
送旬日。乃撫玉匣而感思神女。於嶼子志前日期。忽開玉
匣。即忘瞻之間。芳蘭之體忽變。於是風雲翩飛蒼天。嶼子即奔
違期要。還知復難。會迴首踟躕。淚俳佪。于斯拭淚哥曰。
等許余弊爾久毋多智和多留美頭能。叡能宇良志麻能
古賀計等毋知多留。久毋を。本は父母と作るは。誤なる
聞難し。誤字脱字など。こと著けれべ。今改めて引り。終句
れるなら む。毋知へ。那と有べし。嘗は按るに。計へ許字を誤
多留へ。須礼曽などお。字を落しもし。誤りもあ
せしなどなて。元へ許。等那和須礼曽と。南京
らむか。なは此。歌のこと。
遺響ふいへるを。倂せ考ふべし。又神女遥飛芳音歌曰。夜

麻等弊爾加是布企阿義天久母婆奈礼所企速理等母
與和速和須良須奈嶺子更不勝戀望歌曰古良爾古非
阿佐刀遠比良企和我速礼波等許與能波麻能奈美能
等企許由後時人追加歌曰美頭能敝能宇良志麻能古
我多麻久志義阿氣受阿理世波麻多母阿波麻志等許
與弊爾久母多知和多留多由女久女波都賀未等和礼
曽加奈志企第三四句ハ誤字脱字アルベシ例ノ常ノ字ヲ誤リ又顚倒ヘ又顚倒ヘトイヘルコトナラムカサラバ無絶間ナリ第四句ハ伊比二字ヲ脱シ未ハ米字ヲ誤レルナリ伊比都賀米等トアリシナラムカナハテノ歌ノコトモ南京遺響ニクク云ヘルヲ併セ見テ考フベシ又歌ノ風土記ノ文ノ趣ヨリ水江ハ氏ナルコトト著シ

當雄略天皇二十二年丹後國水江浦嶋子獨乘船釣靈龜嶋子屢浮浪上頃眠船中其之間靈龜變爲仙女玉貌映海上花貌耀船中廻雪之神上迎雲之髮開容貌美麗而失魂芳顏蕙躰克調不異楊妃西施眉如初月出峨眉山醫似落星流天漢水嶋子問神女曰以何因緣故來吾扁舟中哉又汝住何所神

ま美頭能敝と訓るまて訓もミヅノエなること疑てとなし伊勢集ま水の江のかみとおもへべ鶯の花のくゝりを明てざま見ず後撰集ま水の江のあけてざま何そまかはせむ水の江のうら島の子を思ひやりつゝ

もそも此浦島子の故郷へ還來れりしといふ談へ舍人親王の書紀を撰れしより前の事と覺ゆるを此風土記ま雄略天皇御世より三百餘歳を經て還來れるよし云るへいとみざりなり浦島子ヵ傳ま雄略天皇廿二年水江浦島子獨乘釣舩曳得亀浮於波上眠於舟中之間靈亀反忽作美女王顔之艶布威障袂而失魂素質之閑西施捧面無色眉如初月出峨眉山醫似落星流於天漢水織翔雲聳尚當散暫留輕躰鶴立將飛未翔嶋

女答曰妾是蓬山女金闕主也不死之金庭長生之玉殿妾居所也父母兄弟在彼仙房妾在世結夫婦之儀而我成天仙樂蓬萊宮中子作地仙遊澄江浪上今感宿昔之因隨俗境之緣子宜向蓬萊宮將遂曩時之志願令為羽客之上仙島子唯諾隨仙女語須臾向蓬山於是神女與嶋子携到蓬萊仙宮而令嶋子立門外神女先入金闕告於父母而後共入仙宮神女衣香馥々似春風之送百和香馥々如秋月之照萬籟響嶋子已為漁父亦為釣翁眼嶋子唯諾隨神女語須臾島子携到蓬萊宮而令嶋子立於門外神女先入告於父母而後共入仙宮神女衣香馥々似春風之送百和香珮聲鏘々如秋調之韻萬籟響嶋子已為漁父亦為釣翁然而志成高當陵雲彌新心存強弱得仙因健其宮為躰金精玉英敷於丹墀之內瑤珠珊瑚滿於立圃之表清池之浪心芙蓉開唇而發榮玄泉之淮頭蘭菊含咲不稠島子與神女共入玉房薰風吹寶帳而羅帳添香翡翠簾塞而翠嵐巻蓬芙蓉惟開而素月射幌朝服金丹石髓暮飲玉酒環漿九先芝草駐老之方百節菖蒲延齡術妾漸見嶋子之容顏累年枯槁逐日骨立定知外雖成仙宮之遊宴而內生舊鄉之戀慕宜還故鄉尋訪舊里島子答曰久侍仙洞之庭常嘗靈藥之味何非樂哉忽非幸哉抑神女為天仙余為地仙隨命進退當得逆旨哉神女與送玉匣畏以五綵之錦繡以萬端之金玉誡嶋子曰若欲見再

共入玉虫黛風
吹實衣而羅帳
浮香紅嵐卷翠
翠容帷鳴玉金
窓斜素月射幌
珠簾動松風調
琴朝服金丹石
髓暮飲玉酒瓊
漿千並芝蘭駐
老之友百節菖
蒲延齡之術妾
瀕見嶋子之容
頽累年拍搞遂
日骨立疑知外
雖成仙宮之遊
宴而内催故郷
之戀暴宜還舊
里尋訪本境嶋
子咎云瞥侍仙
洞之露延常曹
霊藥之露波非

逢之期莫開玉匣之緘言了約成分手辭去島子棄舟眠
自歸去忽以致故郷澄江浦云々これも水江浦島子
澄江などゝ書るまて氏と地名といひ又澄江波上又
とひとつならぬ一證とをべし又釋日本紀ま天書
第八曰雄畧天皇廿二年秋七月丹波人水江浦島入海龍宮
得神仙丹波といるへ書紀の文よれるかなるべし本朝神仙傳曰
るか丹後を誤れるまた
浦島子者丹後國水江浦人也昔釣于濱得大亀變成婦
人閨色無双即爲夫婦被婦引級到蓬萊遍得長生銀臺
金闕錦帳繡屏仙藥隨風綺饌旅日居之三年春月初暖
羣鳥和鳴烟霞滃蕩花樹競開問歸欲之許婦曰列仙之
陬一去難再來縱歸故郷定非往日浦島子爲訪親舊強

是我幸々久遊
逢蓬之閬雲忽
甘羽客之玉盃
非是我樂哉抑
神女施姉筵嶋
觀夫容進退在
尤右豈有逆吉
手雖然要常不
結眠久欲覺魂
浮故郷涙浸新
衣願吾瞥旧舊
里即又欲来仙
室神女宜然哉
與送玉匣裏以
五綵縅以万端
之金玉誠嶋子
曰若欲見再逢
之期莫開玉匣
之縅言了約成
分手辭去嶋子
乘船如眠自旧

歸駕婦與一笥曰慎莫開此若不開者自再相逢浦島子
到本郷林園零落親舊悉亡逢人問之曰昔聞浦島子仙
化而去漸過百年爰悵然如失歩於邯鄲心中大恠開匣
見之於是浦島子忽變衰老皓白之人不去而死居之三年ハ此
集の長歌ま三とせのほとよいもなくとよめるまよれり
るハ誤なり水江ハ地名ならぬこと上ま云る如し
次ま引日本後紀も亦同じく誤れり
て又此浦島子の故郷へ歸來しと云こと俗本日本後
紀ま天長二年乙巳云々今年浦島子歸郷雄畧天皇御
宇入海至今三百四十七年也浦島子者丹後國水江浦
人也昔釣得大亀變成婦人云々この事古事談まも載

太忽以至故郷
澄江浦尋不値
七世之孫求只
茂万枝之松嶋
子齢子時二八
歳許也至不堪
被玉匣見感紫
煙昇天懐其腋
嶋子忽然頂天
山之雪求合浦
之霜矣
右舊事紀所載

より。又元享釋書は。如意尼者。天長帝之次妃也。丹州余佐。郷人云々。又云。妃之同閭有水江浦島子者。先妃数百年。久棲仙郷。所謂蓬萊者也。天長二年還故里。浦島子曰。妃所持匳。曰紫雲匳。海刻櫻像。時妃藏匳像中。と有るハ。例の佛説。妄誕なり。紫雲匳と云るハ。續後紀の長歌は。紫の雲さなびけてと有るを擬として。付さる物なり。これらハ上より引風土記の文は。故郷は歸りてことを。經三百餘歳とあるみざりことを據として。雄畧天皇廿二年よりこのかた。三百餘年を推算へて作れるとよめるを。いのでさむこのりの事をざは。考へいさらざりけむ。又或説は。天長は還〻ハ。同名異人なるべし。と云るハ。強て妄説をさすくるとざはにて。さらは論はもさらぬことなり。さて又上件書どもは云る趣ハ。みな外國の。ののの蓬萊山の説どもは云る故事は倣へるもれまて。浮さる説のみまして。さらは信用るは足れるもれなし。なほこの後も。浦島子のことを。佛家道家の妄誕をととりまど〻て。文れる書どもゝ有れど。うるさけれべひのず。さて長明が無名抄は。丹後國與謝郡は。ほのさもぞハの明神と申す神います。これハむこの〻浦島の翁の神まなれるとなむ云々とあるせり。さて又浦島子のことを。此集の後歌はよめるハ。續日本後紀十九。興福寺僧等。奉賀天皇。四十。寶算ヲ長歌は。故事爾云語來留。澄江能淵爾釣世志。皇之民浦島子加。天女釣良

礼來豆。紫雲泛引豆。片時爾將豆飛往而。是曽此乃常世之國度。語良比豆七日經志加良。死限久命有志波。此島爾許曽有介良志云々と見え。中古の歌は。夏の夜は浦島の子の筥なれや。あけてくやしきものを。などよみて。あけて悔しきことは。多くよみならへり。又この筥を。歌林良材集は。玉手筥と物せられさり

春日之。霞時爾墨吉之。岸爾出居而。釣舩之。得乎良布見者。古

之。事曽所念。水江之。浦島兒之。

堅魚釣。鯛釣矜。及七日。家爾毛不來而。海界乎過而榜行爾。海若神之女爾。邂逅爾。伊許藝趨相詘良比。言成之賀婆。加吉結常

代爾至。海若。神之宮乃。内隅之。
細有殿爾。撰。二人入居而。老目
不爲。死不爲而。永世爾。有家留
物乎。世間之。愚人之。吾妹兒爾。
告而語久。須臾者。家歸而。父母

爾。事毛告良比。如明日。吾者來
南登。言家禮婆。妹之答久。常世
邊爾。復變來而。如今。將相跡奈
良婆。此筥。開勿勤常。曽己良久
爾。堅目師事乎。墨吉爾。還來而。

家見跡。宅毛見金手。里見跡。里毛見金手。惟常。所許爾念久。従家出而。三歳之間爾。墻毛無家滅目八跡。此笥乎。開而見手歯。如本来。家者将有登。玉篋。小披

爾。白雲之。箱出而。常世邊。棚引去者。立走。叫袖振。反側。足受利四管。頓情消失奴。若有之。皮毛皺奴。黒有之髪毛白班奴。由奈由奈波。氣左倍絶而。後遂壽

死祁流。水江之。浦島子之。家地見。

墨吉ハ。澄江とも書り。丹後國與謝郡よりの地名なるべし。○得乎良布見者ハ。得乎良布ハ。稻掛大平が。手湯多布の誤なるべしと云り。タユタフミレバト訓べし。釣船の。浪上よ猶豫ふさはを見れバ。と云なり。○古之事曽所念ハ。浦島子の故事の。思い出さるゝと云なり。○堅魚釣ハ。堅魚を釣矜と云意なり。矜の言ハ。次句よ

て帶より。さて堅魚と云る名の意ハ。此魚の肉を。長く裂て煎て乾し堅めて。いたゆる鰹節といふものよりの称よて。堅魚の謂なれど。今世よも京などよてこそ。鰹節を常よ加都乎といふなれ。海よある國々よてハ。生魚を直よ加都乎と云ことめづらしからず。なを此魚の事品物解よ委云り。考合べし。○鯛釣矜ハ。契沖。釣の利よあるゆゑよハあらぬなり。惠慶法師。歌よ。このめよるよざのよま人ハこるらし。うら風ゆるく霞わたれり。源氏物語明石よ。をやみなのりしそらのけしき。なごりなくすみよさり

て。いさりをするのまどもはこらしげなり。と云
り。矜の假字。十七ノ
り。土左日記ま。情爾波於毛比保許里底云々と
てなやしき歌ひねり出せりとなるも。京の近くなれ
るを。悦び矜る意ま。一ッの矜の言まて。二ッを兼帯ま
を釣矜りと云意なるを。
ること。上ま云る如し。○及七日云々ハ。海上の和ぎる
ま魚釣ほこりて。歸るさを忘れさるよしなり。○海畏
ハ。古事記ま。塞海坂而返入となるをもて。ウナサカと
訓べし。と本居氏云り。○海若ハ。海神なり。海若の字の

ことハ。既に云り。○伊許藝趨とハ。伊ハそへ言。趨ハ趣
まて。イコギムカヒと訓べし。と岡部氏云り。○相誂良
比ハ。舊本のまゝま。アヒカタラヒと訓べし。カタラフ
ハ。今も夫婦の語ひをするなど云の如し。カタラフハ。
トフと云と。もたら同じ詞なり。誂ノ字ハ。説文ま相呼誘
也と云り。夫婦のかさらひなハ。よく叶へる字なり。此下三十
之誂時となり。又十六開巻歌の序ま。昔者有二娘子一。于時
有二壯子一。共誂二此娘一而捐レ生挌競云々。又十六丁美麗物云
々の歌の左注ま。時有二娘子一。此娘子不レ聽二高姓美人之所一
誂應二許下姓媳士之所一レ誂也。なども見えさり。畧解ま。此ノ末真間娘

子をよめる長歌よ。水門入爾船已具如久。歸香久禮入。
ノ乃言時云々。又筑波ノ嬬歌會の歌よ。未通女壯士之往集
加賀布嬬歌爾云々と云る例なけれバ。これも例のひ
加賀良比と云るよ。アヒカタラヒとなる
めれど。ことなり。舊訓よ。アヒカタラヒとよめる
がこゝハ思ひさりけむ
○言成之賀
をいひでゝ。事の成就〳〵されべといふなり○
婆ハ。言ハ借字よて。
加吉結とハ。加吉ハ添いふ辭。結ハ夫婦の約をなをを
云り。欽明天皇紀よ。始約和親ヲ。又自古以來約爲兄弟。續
紀廿九詔よ。惡奴止毋止相結豆謀家良久云々などゐ
り○常代爾至ハ。到蓬萊山と云なり○海若神之宮ハ。
神代紀よ。乃作無目籠内彦火火出見ノ尊於籠中沉之于
海。即自然有可怜小汀。於是棄籠遊行。忽至海神之宮。其
宮也雉堞整頓。臺宇玲瓏云々。海神於是鋪設八重席薦
以延内之云々。因娶海神女豐玉姬。仍留住海宮已經三
年。彼處雖復安樂。猶有憶鄉之情。故時時嘯歎。豐玉姬聞
之謂其父曰。天孫悽然數歎。蓋懷土之憂乎。海神乃延彦
火火出見ノ尊。從容語曰。天孫若欲還鄉者。吾當奉送云々。
これを思へるなるべし○内隅ハ。禁裏の内重をなを
らへて云るなり。凡そ天皇のおはします。外の御門を
宮城門と云。左右衛門守れり。此を外重と云。其の内の諸
門を中重と云。左右兵衛守れり。其の内の御門を閤門と
云て。それより内ハ御門なし。これ内重なり。舒明天

皇紀ヨ閤門トアリ。ナホ既ク三巻ヨ云ルヲ。併ヲ考フベシ

○世間之愚人之ヘ。世間ヨアラユル第一ノ愚癡ナル人ノト云意ナリ。愚ハカタクナト訓ベシ。皇極天皇紀ヨ。愚癡。催馬樂夏引ヨ。加太久名爾毛乃以不乎美名。榮花物語ヨ。此宮ヨ五六人おハするヨ。すべてあれかさくなしきぞなきなり。字鏡ヨ。僭。不明負。加太久奈。又駄癡也。加太久奈トアリ 癡ハ癡ノ誤なり。又靈異記ヨ。陋ヲカタナクトヨ免ルヘ。。。クナノ倒置なり。紫式部日記ヨ。アラいなくのさハらいさきそ。かさくるしきや。枕冊子ヨ。人のなぞ〳〵アハせしーける所ヨ。かさくなるヘあら

で。さやりの事ヨ。らり〳〵のりけるの云々。天智天皇紀ヨ。癡奴。續紀廿ヨ。狂迷遍流頑奈留奴心乎波。三十ヨ。頑爾無禮伎心乎念ヲ。横乃謀乎搆トアリ。廿六ヨ。志愚仁心不善之天。てれもカタクよむべし。加多ハ偏倚なる意なり。久那ヘ。續紀廿。巻の大命ヨ。悪逆在奴。久奈多夫禮麻度比。某々伊。逆黨乎伊射奈比率而云々。又久奈多夫禮良爾註誤百姓波云々などアリて。無智なるを云古言なり。されバカタクナと云ヘ。愚ノ字の古言ヨそアりける。又一ッ思ふヨ。十六九丁ヨ。端寸ハ爲老夫之歌丹大欲ハ。愚ノ字の意ヨ近き言と聞ゆれど。こハもおホ。。シ。ヒ。トとよまむのとも思ひーのどめも。猶前ヨ云るヨ據べし。又畧解

は.神代紀は.愚をウルケと訓れど.それは當らず.又舊訓は.シレタルとよめるもなほ○如明日云々は.アスノゴトと訓べし.志の訓むのと云くのへらむとなり○開勿勤常は.ゆめ〳〵開くことなのれと云なり○曾己良久爾は.そこだくとよと云なり○堅目師事乎は.堅く約り交〳〵さる事なるをの意ふことの.つひはその本意を得ざるを云言なり.既く委〻云り.大和物語は.本の夫をさづねて.難波は來さる女のことを云る所は.をとこはいひけるやう.津の國と云所のいとおのしげなるは.いのでなはは.そらへしのてらまのらむとと云れべ.いとよき事.我もをろともといひけれべ.そこはお物し給ひそ.おのれひとりまのらむといひて.いでさちていはけり.難波はもらへして.歸りなむとする時は.このことをは見るべき事なむ有るとて.今そこしとやれのくやれと云つゝ.此車をやらせつゝ.家の有しさりを見るは.屋もなし人もなし.いづのさへいはけむと.かなしう思ひけりとあるは.こゝのおもしのげをまねべるはや○恠常は.アヤシシトと訓べし.恠きは因ての意な

り。常の辭ま意なし○所許爾念久ハ。契沖の。そこまで思ふやうと云むの如しと云り○三歳之間爾ハ。こゝト。セノホトニと訓べし。間ハカラとも訓べし。神代紀ま。一夜ヨ耳ミ宿タリ有シ之ノ間カニ。崇峻天皇紀ま。十八ま。安須余里波都藝ノ間カニ。此下ま。廿一丁ま。一夜ヨ之

清ヨ誤。拾穗本ヨ従〇皮毛皺奴ハ。字鏡ヨ。酢ハ測板ノ反。酸面皴於毛呂志和牟ニ同リ〇黒有之髪毛白班奴ハ。竹取物語ヨ。此ノ事ヲ云ヘルニヤ。御使つのハせ給ふ。御使ヨ竹取出テ。ナ〳〵ことかぎりなし。此ノ事ヲ云ヘルニヤ。いげもおろ〳〵。こゝもかがまり。めもさゞれ（ーゝィ）ヨけり。おきなことゝハ。いそちだのりなりけれども。物おもひヨハ。かゝときヨなむ。おいヨなりヨけり。土左日記ヨ。舟君なる人浪を見て。國よりそゞめて。海賊むくいせむと云なる事を思ふりヘヨ。海のまさおそろ〳〵けれバ。頭も皆ちらけぬ。七十八十ハ。海ヨ伺るものなりけり。十訓抄ヨ。顕光左大臣ハ。小一条ノ院の女御殿ニ伺らそひヨよりて。御堂ノ關白を恨奉りて。悪霊と成て。一夜の内ニ。ことごとく白髪ヨなりヨまひけむこそ。いとおそろ〳〵けれなどみゆ〇由奈由奈波ハ。或人考ヨ。由李々々波（ユリユリハ）の誤なるべ〳〵と云るそよき。ユリユリハ。後々（イチノチ）と云ヨ同じ〇家地見。是ハ家の跡と語傳ヘ〳〵地（イヘトコロミユ）の伺りて。そこを見てよめるなれバ。ミユと訓べし。さて初ヨタユタフ見者（ミレバ）といふを。此ヨて結び

さるなり

反歌（カヘシウタ）

常世邊（トコヨヘニ）可住物（スムベキモノ）乎。劔刀（ツルギタチ）。柄（カラ）。於曽也是君（オソヤコノキミ）。

本ノ二句ハ。契沖云。歸らでそれまゝ住べきものをと。評しいふなり。浦島が後悔よハひならず。まゝ歸るとも。箱をもあけざらましのべ。ふるさび常世ふ行て住べき物を。と云心とも聞ゆ○劔刀ハ。枕詞なり。契沖。劔刀の心

とつゞけゝり。柄のことしいるゝなのごと。心といふなり。第十二ニ。高麗劔已之景迹故外耳。見乍哉君乎戀渡奈牟。これも同じつゞけやうなり。禮記ニ云。禮其レ在レ人ニ也。如ニ竹箭之有レ筠也。如ニ松柏之有レ心也。周易ニ云。其於レ木也爲ニ堅多レ心也。などある心ニ同じと云り○已之心柄ハ。汝ノ心故と云ノ如し○於曽也是君とハ。於曽ハ。心おそきことなり。十二ニ。山代石田杜心鈍。手向爲在妹相難。此心おそくと云ニ。心鈍とのける字の意なり。源氏物語よもぎふニ。はのなきふる歌。ものゝさりなどやりのすさびごとまでそ。つれゞをも

まぎらはし。かゝるすまゐをも。思ひなぐさむるわざなめれ。さやうのことよも。心おそく物ごと給ふ。橋姫よ。なやし。くかうべしくまわふ風の吹つるを。思ひのけぬはとなれべ。おどろのざりける。心おそさよと。心もまどひてはぢおもへさりすと云り。此二ッの心おそき。今よ同じ。也。歎息辭なり。世の中のこゝろ人のと云る心を。再び云て。なゝ心鈍やと歎き罵さるなり。是君とは。浦島子をさしていへり。○歌意は。さとひ本郷よ還り來るとも。期ごとく。箱をひらのぞきてふさび常世よ行て。永く住べきものを。期をさのへてかくはのなくなれるわ。嗚呼さても心鈍き愚人や。この君となり

見河内大橋獨去娘子作歌

一首并短歌

河内。大橋は。歌よ見えよる。河内國片足羽河よ懸れる大橋なり

級照。片足羽河之。左丹塗。大橋

之上從。ヨ(クレ弁ノアカ)紅赤裳數十引。(ソビキヤマヰモチ)山藍用。
摺衣服而直獨。(スレルキヌキテタヾヒトリ)伊渡爲兒者。(イワタラスコハワカ)
草乃。(クサノツマカアル)夫香有良武。(ヲラムカシノニホレキワ)檀實之。(マユミノヒトリカ)獨歟
將宿。(ヌラムトハマクノ)問卷乃。(オホレキワギモガイヘノシラ)欲我妹之。家乃不
知。(ナク)

級照ハ。(シナデル)枕詞なり。契沖。級ハきざはしの等級なり。照ハ(テル)
階をほむる詞なり。片(カタ)よつゞけさるハ。階ハかさなれ
ひよりなるものなれバなり。遊仙窟ニ曰。碧玉緣階(メグラシ)參差(カタヾガヒニヲ)於
雁齒(キザハルコトノ)。雁齒ハ。者。刻レ木ヲ亦刻レ石ヲ爲レ之ヲ。其ノ形一ハ前一ハ後。如ニ雁之行
列一。人馬牙齒ノ之形。今ノ人作ニ牀脚一。又作ニ階砌一。皆累縛作ル
ヒヨ(ヒヨ)とゐりと云ヲ。今按ヨ。此つゞけハ。既ク書紀聖德太
子ノ御歌ヨ。斯那提(シナデル)流箇多烏箇夜摩爾(カタヲカヤマニ)とゐり。さてこゝ
ヨ。級(シナ)と書れバとて。階級とせむハ。ゐまりヨ字ヨ泥み
よる事とおわゆ。又照を美(ホム)る詞なりとせむも。心ゆの
ぞ。故(レ)考るヨ。斯那(シナ)ハ。嫋の意。提流(テル)ハ。佐比豆流(サヒヅル)など云豆(ヅ)
流(ル)と同言ヨて。然ゐてある形容(サマ)をいふとき。附ていふ言な

るべし。さて片（カタ）とつゞくへ。肩（カタ）の義よ。いひ係（コヽロ）縦（マヽ）なるその故。嫋（シナ）やゞよしてゝ古語よ弱肩（ヨワカタ）とも云るを。併（セ）思ふべし○片足羽河へ。本居氏。河内志よ。志紀郡と安宿郡との堺なる。石川の舊名なりと云。或人も。此河なりとして。彼大橋へ。今國府渡と云處よ掛れりしなりと云る。是ら古しへ語傳へさる説よやはらむといへり。さて和名抄よ。越前國足羽郡足羽。越後國沼垂郡足羽などはあるを。みな安須波（アスハ）と注しされば。片足羽へ。もとよりカタアスハなり。又もし古事記安寧天皇。

條よ。師木津日子玉手見命。坐片鹽浮穴宮治天下也。と有ると同地ならべ。片足羽へ。即チカタシハと訓べし。片鹽（カタシノカキ　アナノミヤニ　アメノシタヲシロシメシキ）も河内國なり○左丹塗（サニヌリ）へ。左へ例の真（マ）よ通ふ美稱なり。丹塗（ヌリ）へ。ゆきげよを丹よぬりて。色どり飾れるを云なるべし○山藍（ヤマヰ）用摺衣（モチスレルキヌ）へ。山藍（ヤマヰ）染（ソメ）の衣なり。貫之集よ。やまゐもてそれる衣の赤紐の。なごしそ吾へ神よつのへむ。新古今集よ。衣手のやまゐの水よ影見えし。猶そのかみの春そこひしき。いよしへのやまゐの衣なりせば。こすらる身となりやもなまし。民部式よ。凡神祇官。卜竹（マタ）。及諸祭諸節等所（ニ）須。箸竹柏生蒋山藍等類（エ）亦

仰二畿内一令レ進ラ乙ㇾ。山藍のことハ。猶品物解ヨ云り○伊渡爲兒とハ。伊ハそへ言。渡爲ハ。渡を延言るヨて。渡り賜ふ兒といふはとの意なり。兒ハ娘子を云り○若草乃ハ。枕詞なり○夫香有良武ハ。夫ハ宇の如〳〵男夫をさを。夫のつるらむのと云なり○檀實之ハ。枕詞なり。此ハ栗などの實ハ。一房の内ヨ二ッも三ッも裹まれヨるを。檀實ハ。一枡の内ヨ一ッづゝ實のなるものなれバ。獨といをむとて。かく續けヨるなり。冠辭考ヨ。椎。子などハ聚りて結ぶを。檀の子ハ。疎〳〵一ッづゝなる物故ヨ。あの冠らせヨりと云るハいさゝのさの〳〵聚らざるヨハかゝハらずして。一枡の内ヨ放れて實なるをてそ。獨といふべけれ

○問巻乃ハ。問む事のといふ意なり○家乃不知ハ。家の知ラれぬ事となり。問まゐ〳〵ハ思へども。打つけヨ問べきよしのなければ。問ことも得せぬいのよもし

て。家の知ラき事そと。深〳〵慕へるなり

反歌

大橋之。頭爾家有者。心悲久。獨去兒爾。屋戸借申尾。

頭ハツメ。なり。天智天皇紀ヨ。于知波志能都梅能阿素弭爾伊提麻栖古。催馬樂ヨも。橋のつめと云り。○心悲久ハ。マガナシクとよむべし。マハ。りハへをかざりて。一の思ふよハあらば。心の裏より信實ヨ愛憐く思ふよ〳〵なり。心字をのける即其意なり。悲久ハ。物語書ヨ。多〳〵このなし〳〵さまふ子など云るヨ同じ。愛憐の意なり。さて此一句ハ。終句の上よめぐらして心得べし。○歌意ハ。河の大橋の頭ヨ。吾家のあるならバ。唯獨往。愛〳〵き娘子ヨ。今夜ハ此。處よやどりてゆきさまへと。て留めて。心よりかなしくめで思ふとほりヨ。宿を借て。共ヨ寢べきものをとなり

見武藏小埼沼鴨作歌一首

前玉之小埼乃沼爾鴨曾翼霧。

己尾爾零置流霜乎掃等爾有斯。

旋頭歌なり○前玉(サキタマ)へ.和名抄よ.武藏國埼玉,郡佐伊太(タ)
末(マ)となり.伎(キ)を伊(イ)といへる○翼霧(ハネキル)へ.羽ざゝきをいへ.後の音便なり○翼霧(ハネキル)て
となり○已尾へ.オノガヲ。。。なり.尾ハミは非(ヒ)ず.十五十一(テワガヲニハシモナフリ)よ.
可母須良母(カモスラモ)都麻等(ツマト)多具比(タグヒ)豆和我尾爾波之(ニハシ)毛奈布里
曾等(ソト)となり.鴨ハ尾を大切(タイセツ)にするよりて.この〳〵云り
○掃等爾有斯(ハラフトナラシ)へ.ハラフト。。。。。と訓べし.清少納言
草子よ.かもハハぬの霜打(シモウタ)らふらむとおもふよ.を
この〳〵となり○歌(ヒトツ)意ハ.此小埼の沼よて.おきりよ鴨ぞ
羽ざゝきするよ.なれハ已ぞの大切よするそれ尾よ.霜
ぞの降おく故よ.その霜をいとひて.そらふとよてゐる

らしと
なり

那賀郡曝井歌一首

ナカノコホリサラシヰノウタヒトツ

那賀,郡曝井ハ.畧解よ.武藏,國那珂なるべし.といへる
てれハ武藏,國の小埼,沼ハ武藏,國なれど.
まあらず.右の小埼,沼ハ武藏,國なれど.
和名抄よ.常陸,國那珂,郡.國造本紀よ.仲,國,
造.志賀,高穴穂,朝御世.伊豫,國,造同祖.建借馬,命定賜國
造.常陸風土記よ.那賀,郡.自レ郡東北挾(ナカニオキ)二粟河一而(フテ)置二驛家一(ヲ)當(ニ)
其以南(ニ)泉出(ニ)坂中一(ニ)多流尤清.(ケシ)謂之曝井(サラシヰトソヒテ).縁レ泉(ニ)ヲルムラ所居村落婦
女.夏月會集(ツドヒ)浣(ヒテ)レ布(ヲ)曝(サラセリ)乾.契沖.さらし井の名ハ.布などさ
らすよ.この水よてハ.よくしる

むこゝろはて、つゞけさるなるべし、といへるごとし、又此、郡内は、大井河内川邊（オホ井カフチカハ）へ
洗井（アラヰ）など云郷にあるへ、みな此、曝井よりよれる名なや

三栗乃（ミツクリノ）中爾（ナカニ）向有。曝井（サラシ井）之（ノ）不絶（タエズ）
將通（カヨハム）。彼所爾（ソコニ）妻毛（ツマモ）我（ガ）。

三栗乃（ミツクリノ）へ、枕詞なり、契沖云、栗へ多分栗毬の中は、三ッづつあるもれなり、さとひまろき栗の一ッ有るも、栗楔とて、両邊よそへさる物なり、其、栗楔へ杓子よ似されバ、俗よ杓子と云なり、此、故よ三ッなるものよへ、必ス中なれ

べ、中（ナカ）といふこと葉まりけむとて、みつくりとへいへり、○中爾向有へ、本居氏、向へ回の誤よて、。。。メグレルなりといへり、那珂、郡よ流れ廻れると云なるべし、○不絶將通（ズカヨハム）へ、曝井の水のさえぬ如く、いつまでもるえず、かよもむとなり、○歌、意へ、那珂、郡よ流れ廻りてなる、この浄潔き曝井の水の絶ぬごとく、いつまでも絶ず通ひ来べきよとなり、井

愛（ウツク）しき妻ものなれのし、さらべ井を見のてら、常よをとめて、讀るなるべし

和名抄ヨ.常陸國多珂郡.國造本紀ヨ.高國造志賀高穴穂朝御世.弥都侶仮

手綱濱歌一首

手綱濱ハ.八雲御抄ヨ.紀伊と注せさせさま〳〵りタヅナノハマノウタヒトツ

遠妻四。高爾有世婆。不知十方。

手綱乃濱能。尋木名益。

遠妻四ハ.遠妻とハ.本郷ヨ置て.遠〳〵別れ来ヌる妻をトホツマシソコニアリセバシラズトモタヅナノハマノタヅキナマシ

云べし。四ハ.例のその一ト点そちなるを.おもく云助辞なり○高ハ.其の誤なりと岡部氏云り.さもあるべし○歌意ハ.遠〳〵別れ来ぬる本郷の妻の.あり〳〵如〳〵家ヨ居て.其所ヨありせバ.さとひ道あらずとも.尋ね慕ひ来て.この手綱濱の面白き風景を.吾と共ヨ愛まゝ〳〵ものを.さもなきハ.他の夫ヨ心うつりして.吾戀〳〵思ふ如〳〵.吾を思ひぬヨやあらむとなり.これハ旅なる人の.手綱濱ヨてよめる歌なり

命孫弥佐比命定賜國造

慶雲三年丙午春三月。諸卿

キヤウウムこトセト云トシヒノエウマヤヨヒモロ〳〵マヘツ

大夫等。下難波時歌二首并
短歌

并短歌の三字。舊本なへなり。目録によへり。官本なり○これハ慶雲三年九月丙寅行幸難波。十月壬午還宮と續紀ニ見えされバ。此春より。幸の御用意なりて。三月ニ卿大夫等を難波へ下されし。それ時ニよめるなるべし。この故ニ。次の長歌ニ。君之三行者今西應有といへり

白雲之。龍田山之瀧上之。小鞍嶺爾。開乎烏流。櫻花者山高風之不息者。春雨之繼而零者最末枝者。落過去祁利。下枝爾。遺有花者須臾者。落莫亂。草枕。客

去君之。及還来。

白雲之ハ。立とつゞきさる枕詞なり○瀧上ハ。次下の長歌より。瀧上之櫻花者とよみ。又その次の歌より。島山乎射往迴流河副乃岳邊道從と云て。岑上之櫻花者瀧之瀬從落墮而流と云されべ。この瀧ハ。立田の川瀧より。小鞍ハその上の山なれべ。瀧上とハ云なり○小鞍嶺ハ。立田山の中より。一の名付るのりと見えたり。此巻初より。暮去者小椋山爾臥鹿之とあるも。此を云なるべしと契沖云り。新古今集より。白雲の春ハ重ねて立田山。小鞍の嶺より花のほふらんハ既く委釋り。盛より開滿るき故よの意なり○最末枝ハ。神代紀より。上枝をホツエ。とよめり。秀津枝なり○下枝ハ。シヅエ。より。石著枝の意なり。下より出て。石土より著よりなり○草枕云々ハ。契沖。これハとゞまれる人のよみとするやうより聞ゆれど。反歌より。吾去者七日不過と云るを思ふより。我も難波へ下る身なのら。卿大夫のまりへまさでのへる人の貴人のよめより。草枕客去君之及還来といひ。みづのらも ゆく故より。反歌より。吾去者七日不過とも云るなりと

云り。畧解ふ。君ハ吾の誤まて。タピユクワピ
が。なるべ〳〵といへるハ。大ー(イミ)き非なり。さて難波
へ下るふ。龍田山を越るとて。其山の花の散殘れるハ。
ほとな〳〵還り來て見むまで。散(リ)
はてぞ〳〵てなれと令(オホ)せてるなり
カヘシウタ
反歌
アガユキハナヌカハスギジタツタヒコユメコノ
ハナヲカゼニナチラシ
吾去者。七日不過。龍田彦。勤此
花乎。風爾莫令落。

大和志ふ。龍田比古龍田比女神社二座。俱在平群郡立野村。父老云。村西有飯尾山。山上有兩封土。崇神天皇七年十一月。定天社國社干此。日本紀曰。天武天皇四年夏四月。祠風神于龍田立野乃藥

ナヌカハスギジ
七日不過ヘ。十七四十六丁ふ。知加久安良波伊麻布都可太
ミトホクアラバイマフツカダ
未。等保久安良婆奈奴可乃宇知波須疑米也毋仮奈牟
ワガセコヂモコロトソヨトソイメニツゲツル
和我勢故。祢毛許呂爾奈孤悲曽余等曽。伊麻爾都氣都
流。下の麻ヘ。米の誤なるべし。十三二十六丁ふも。タト之吾爾告良久。久
ナヌバイマナヌカバカリアラムトソキミハキコシシ
有今七日許。早有等曽君者聞之二二。
ナコヒワギモタツタヒコ
勿戀吾妹とのり○龍田彦ハ。神名式ふ。大和國平群郡。
龍田ニ坐天御柱國。御柱神社。二座並名神大。月次新嘗。まゝ龍田比
古龍田比賣神社二座と見えたり。即チ龍田山の東の麓。
立野と云處ふ坐て。今もそこを立野村といへり。是則
天御柱國。御柱神社なり。其立野の神社の瑞籬の内ふ。

集曰云々神幸之地在龍田村舊名御越今建小祠曰新宮按ふに此説よるとき大御夢の悟よりて天武天皇四年龍田立野ふ祭られー以前ハ飯尾山ふ祭られーみやあらむ其事崇神天皇紀考ふべし神幸ハいづのならむなる本書ふ就て考ふべー

東ふ向て大なる社二ましまします。これ比古神比賣神なりこそ。古事記上巻よ。次ニ生ニ風神名志那都比古神ニ云々。これ則龍田彦神なり。書紀神代一書よ。伊弉諾尊曰ニ我所生之國唯有朝霧而薫滿之哉乃吹撥之氣化ニ爲神ト。號曰ニ級長邊命ト。是風神也とゐる。これ則龍田姫神なり。級長ハ。篇疏ふ。息長といをむの如ー。と云る如ー。風神ハ。大御神の御息より成給へれバなり。岡部氏説ふ。龍田風神祭祝詞ふ。此神ハ比古神比賣神ならび坐ことまるけれバ。古事記日本紀。さのひふ一神脱さるべーこ云るごとし。かくて祝詞式ふ。我御名者天乃御柱乃命。國乃御柱乃命止。御名者悟奉氏云々。奉宇豆乃幣帛者。比古神爾云々。比賣神爾云々とゐる。この比古神比賣神ハ。大和志ふ。父老云。平群郡立野村西ニ有ニ斂尾山ー山上ニ有ニ両封土ー崇神天皇七年十一月定ニ天社國社于此ニ云々。これ則龍田姫のことゝきるごとくならバ。その斂尾山ふ拝祭られーならむの。但ー書紀ふ見えたる天社國社ハ。ひろく神祇を申せることなれバ。天御柱國御柱を云るふハゐらバ。未の中ふハ。おのづから風神もこゝ

天皇の大御夢ふさとー奉りさまへるふよりて。龍田の立野ふ宮柱定め奉りさまふ趣。祝詞ふ見えさり。その前ハ。大和志ふ。父老云。平群郡立野村西ニ有ニ斂尾山ー山上ニ有ニ両封土ー崇神天皇七年十一月定ニ天社國社于此ニ云々。これ則龍田姫のことゝきるごとくならバ。その斂尾山ふ拝祭られーならむの。但ー書紀ふ見えたる天社國社ハ。ひろく神祇を申せることなれバ。天御柱國御柱を云るふハゐらバ。未の中ふハ。おのづから風神もこゝ

幣帛者。比古神爾云々。比賣神爾云々とゐる。この比古神比賣神ハ。大和志ふ。父老云。平群郡立野村西ニ有ニ斂尾山ー山上ニ有ニ両封土ー崇神天皇七年十一月定ニ天社國社于此ニ云々。これ則龍田姫のことゝきるごとくならバ。その斂尾山ふ拝祭られーならむの。但ー書紀ふ見えたる天社國社ハ。ひろく神祇を申せることなれバ。天御柱國御柱を云るふハゐらバ。未の中ふハ。おのづから風神もこゝ

れることへ
さらなり　○歌、意へ、さとひ吾ヵ旅行へ、久〳〵くても七日をバ過さじ、風神の龍田彦よ、ゆめ〳〵この花を、風ふちらし〳〵まふなとなも、龍田彦へ風、神なり、故ふ、風まちらし〳〵めさまふなよと祈るなり

白雲乃。立田山乎。夕晩爾。打越去者。瀧上之。櫻花者。開有者。落過祁里。含有者。可開繼。計智期智乃。花之盛爾。雖不見。左右君之。三行者。今西應有。

智乃。花之盛爾。雖不見。左右君之。三行者。今西應有。

打越去者へ、馬ふ鞭を打て、山を越行バと云なるべし。○計智期智乃へ、此此之ふて、彼此之ことふ云むの如し、この詞のこと、三巻ふ委釋り○雖不見、此までの意へ、早く咲さるへ、さきふ散過ふけり、今含みてなるへ、やゞて咲つゞべし、されバ彼方此方の花の滿盛を、一度ふ御覽ぜしめむことへ、叶ふまじくともいふなり、さ

てこの下ふ.脱句ありるべし.落莫亂などの三字を失へるの.さらべ雖不見落莫乱と訓べし.さてせめて遅く咲さるむかりは.おなじら〳〵落て亂るなよ.君の行幸は.今追付てあるべきぞ.と云るなり.○左右は.兎ふも角ふもこ云意なり.速くても遅くても.寂早こまか〳〵ふ間はならじとなり.○君之三行者は.天皇の行幸者といふなり.字鏡ふ.馳.幸也行也.於保三由支.とあり.美由伎と云も.古言なるべし.○今西應有は.今は.俗ふ.追付といふの如し.今と云こと.古言ふさま〴〵ふつつのへる中ふ.此なるは.十二十七丁ふ.湊入之葦別小舩障多.今來

吾乎不通跡念莫.十三廿七丁ふ.門座郎子内爾雖至.痛之戀者今還金.土左日記ふ.今日破籠持せて來る人.名.などそや.今思ひ出む.源氏物語末摘花ふ.今心のごのふを.寄生ふよろづは今さぶらひてなむなど.物語書ふことは多し.これらみなこゝなると同じく.俗ふ追付といふ意なり.其.他即今の今の外ふ.新の意よも.又と云意ふも.通は〳〵用さることなり.各.其.處ふ釋べし.西の之は.助辭なり.さざのふたのりとする意のとき.爾之と連ぬることゝさゝ〳〵ふ云る如し.さてこれは行幸の前ふ.卿大夫の難波へ下れるの中よ.よめるまて.

今志べらくの間、散過ることなこのれと願へるなり、さて此歌ふて見れバ、春内ふ、難波ふ幸ー賜ハむの大御心なりーふや、さるをかよこのくさへることなどおはーまーて、秋よなりさまへるふもいらむ

反歌（カヘシウタ）

暇有者（イトマアラバ）。魚津柴比渡（ナヅサヒワタリ）。向峯之（ムカツヲノ）。櫻花毛（サクラノハナモ）。折末思物緒（ヲラマシモノヲ）。

暇有者（イトマアラバ）ハ、行幸の御用意ふ事志げなれべ、暇もあらべと云なり○魚津柴比渡（ナヅサヒワタリ）ハ、本居氏云、昔より此、詞をいきる説、みなよろしからず、今その歌をあまねく考へ合するふ、或ハ海川などふりのべること、或ハ船より渡ることなどふいひ、枕詞なも、引網の、鳥ぐものなどいひて、いづれも〳〵水ふ著〳〵ことなのみ云り、水よらぬハ一ッもなし、集中の歌共をこゝろみて志るべし、其中ふ三、巻なる長歌ふ、何在歳月日香（イカナラムトシツキヒニカ）、茵花香君之（ツジバナノキミガ）、牽留鳥（ヒクアミノ）、魚津（ナヅ）、亜来（サヒコムト）與云々、これハ上ふも下ふも、海川などの事見えねども、他（ホカ）の例をもて思ふに、海路を

經て.歸り來べき國の人なるべし.又今の歌ふも.海川のことゝ見えざれど.渡ゐいひ.長歌ふも.瀧(タギノヘ)上之ごとゝ.いはれべ.山川を渡りゆくことなり.此,外にみな海又川ふなどふ云るへ.いさゝか意異なりて.なれゝさしむることゝ.ゆ云り.神樂(アソビ)の歌ま.すめ神の御手ふとられてなづさへましをとゝ.ゐるも.然なり.いのまして.かくまでいへりつりかへりけむ.万葉よいへるといへいさゝかのも似よれるのさなし.此,説玉勝間からゐるま見ゆ.今按ふ.言,義へ.古事記,歌ま.那豆能岐(ナヅノキ)と.ゐるへ.浪漬之木(ナヅノキ)さいふ事と聞えされべ.那豆佐布(ナヅサフ)へ.浪漬傍(ナヅサフ)なるべし.此,事既に三,巻,下ま.も云りき○櫻花毛(サクラノハナモ).といへるふ.心を付べし.吾(ワ)自(ラ)見て愛るのみならず.折取來て.後れ居さる本郷人まも.見せまほしくおもふまなり.さらずへ櫻花乎こ云て.車足りぬべき處なり.櫻花を折ても來ましものをこ.毛(モ)を下まめぐらして見るときへよく聞ゆるなり○歌,意ハ.公用の暇ゐゐるならべ.山川を浪漬(ナヅ)傍(サヘ)渡り行て.向(ムカ)の瀧の上の櫻花を.吾(ワ)見るのみならび折取來て.本郷人の裏(ウラ)もせましものをと.さるいとまのなきぞ.くちをしき事となり

難波經宿。明日還來之時歌
一首并短歌

明日還來ハ。行幸の御用意をなしをへて。
難波を立てのへるときをいふなるべし

島山乎。伊往廻流。河副乃。丘邊乃
道從。昨日已曽。吾越來牡鹿。一
夜耳。宿有之柄二。岑上之。櫻花
者。瀧之瀬從。落墮而流。君之將
見。其日左右庭。山下之。風莫吹
登。打越而。名二負有杜爾。風祭
爲奈。

島山ハ。契沖云。大和なり。第五ノ。奈良路なる島のこゞ
ちとよみ。十九ノ。島山爾安可流橘とよめる所なり。已上
契沖説。今按ふ。この島山ハ。地名ふハ。なるべからず。前の
長歌どもふも。龍田山をよみ。此歌よも立田川の瀧を
よみ。名ニ負有杜とよめるも。立田彦神社のことなれ
べ。これハ立田川ノ臨める山を。島山といふなるべし
○射往廻流とハ。射ハそへ言。廻流ハまハるとの意なり。さゞ一夜だのり宿さ
ど○宿有之柄ニとハ。柄ハ故と云ふ同じ。宿さりし故
ふハ。宿さりしものをとの意なり。さゞ一夜だのり宿さ
りしものをそやその間ノ。ちりてなどのるゝよと云な
り○岑上ハ。廿巻ノ。多加麻刀能乎能倍乃美也波云
云となり○落墮而流ハ。水の上ふ落て。瀧と共ふさぎ
りて流ると云なり○君之将見ハ。君ハ天皇なり。行幸
せさせ給ひて。御覧ぜむまでハといふなり○山下
之ハ。アラシノと四言ノ訓べし。八。巻十七ノ丁ふ。霞立春日
之里梅花。山下風爾落許須莫湯目ことあり。ヤマオロシ。
後めき さり ○風莫吹登ハ。風吹事なのれよと云なり。契沖
云。拾遺集ニ云。亭子院大井川ふ御幸ありて。行幸もあり
ぬべきところなりとおほせ給ふよ。ことのよし奏せ
むと申て。貞信公。をくら山みねのもみぢ心あらバ

今一度のみゆきまさなむ。花と紅葉とハかハれども。
歌も詞書も。よ〳〵こゝより似されべ。こゝの二首をおも
ひて。負信公もよみ給へるの。おのづからも通ひぬべ
し。○打越(ウチコエテ)而ハ。馬ふ鞭打て。龍田山を越てと云か。又ハ
打ハ。只いひおこせ料ふ。そへさる詞ともおもふべし。○
名二負有杜(ナニオヘルモリ)ハ。風神と名ふ負さる杜と云なり。これ龍
田。社なり。神名式を上ふ引さる如し。その天御柱國御
柱二神ハ。級長津彦神級長戸邊神。男女二柱ふまし〳〵
て。上ふ古事記書紀を引ていへるごとし。但古事記ふ
ハ姫神を傳へもらし。書紀よハ彦神を傳へもらせり。

書紀ふ。吹撥之氣化レ爲レ神。號曰二級長戸邊一命。亦曰二級長
彦一命。是風神也。この亦曰ハ。本居氏の。一云を後ふかゝ
誤れるものなりと云り。信ふあたり。邊ハ女神の稱。彦ハ
ハ男神の稱なれべ。級長戸邊命の亦名を。級長津彦命
と申すべき謂なけれバあり。龍田風神祭祝詞よも。比古神比賣神二
柱なる證明白なり。さてこの祝詞ふ。大御夢の悟よ
りて。立田ふ祭給へるよ〳〵見えさるハ。崇神天皇御代
の趣なるふ。天武天皇紀ふ。五年夏四月甲戌朔癸未。遣二
小紫美濃王。小錦下佐伯連廣足一祠二風神一千龍田立野一云
云とあるハ。よ〳〵あるべし。これハ風神を。立田立野ふ。
ら〳〵。中間(ナカ)疎(オロ)忽(ソカ)なれるを。始めて祠り賜へるハあ
ありて。嚴重ふ幷祭らしまへるを。天武天皇の御せふ由緣か
〳〵て前よもいへるごと〳〵。龍田比古龍田比賣ハ。天御

杜國御柱の二神の。和魂荒魂の差別ありて。分て祭れるなるべし。もとより別神のよしゐへり。字鏡ゐも。杜ハ毛利（モリ）トあり○風祭（カザマツリ）爲奈ハ。四月七月両度ノ行ハルヽよし。延喜式ゐ見えたる。それ五穀成就のためよ。式（サダ）まりて祭給ふなり。今いさゝまれる祭よいならずて。行幸の前なれバ。花のさめよ祭らむといふなり。

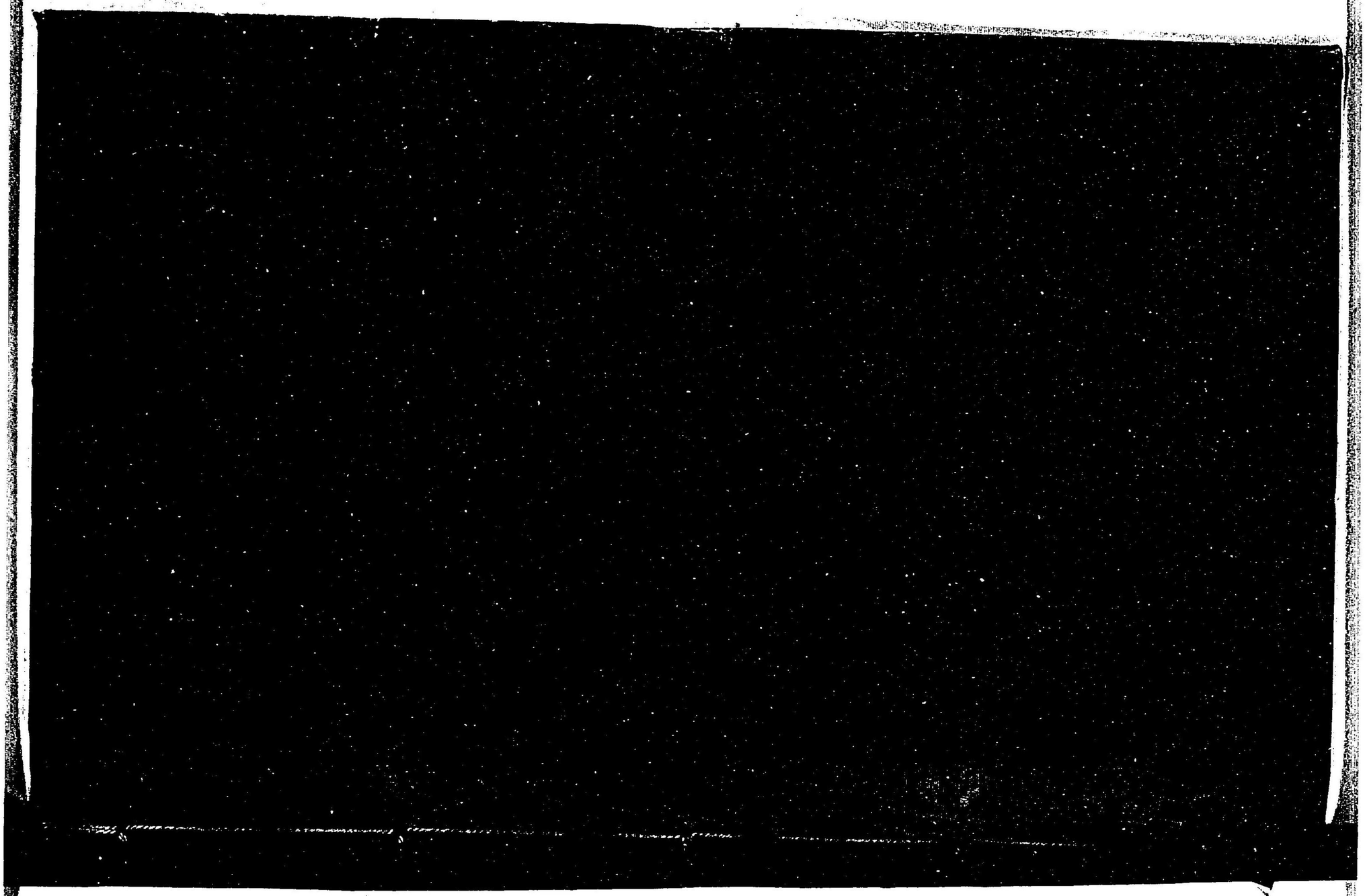
爲奈（セナ）ハ。爲（セム）牟を急（イガシ）云るなり

反歌（カヘシウタ）

射行相（イユキアヒ）乃。坂上之蹈本爾（カノフモトニ）。開（サキ）乎令見兒毛（ヲセムコモ）欲得（ガモ）。

烏流（ヲル）。櫻花（サクラノハナ）乎（ヲ）。

射行相（イユキアヒ）乃坂（ノサカ）上トハ。射（イ）ハそへ言なり。此ハ坂の名よいならず。こなさかなるより蹲（ホ）る人行逢故よ。行相（キアヒ）の坂と云るなり。坂上とかけるハ。人の躋りて行ふ頂上の意もてのけり。神武天皇紀ゐ。皇師（ミイクサ）勤兵（ツトノヘテカヨリイデマスタツタニ）歩趣龍田而（ヲ）。其路（ソノミチ）狭嶮（サガシクテヒトヅエニ）人不得（ヒトヅエニ）並行（ナラビユカ）トあり。坂路思ひやるべし○開（サキ）乎烏流（ヲル）烏。舊本烏ゐ誤ハ。盛りよ開滿るさまなり。上よ出つ○

歌意ハ.龍田山の坂の麓よ.盛よ開満さる櫻花を.思ふ
其女よ見せまほしく思ふを.いので其女もごのな.こゝ
よ何れのしとなり

16
125
96